

令和3年度京都市芸術文化協会賞及び新人賞受賞者経歴等



【協会賞】 田中美鈴（洋楽）



【協会賞】 杵屋勝九郎（伝統芸能）



【協会賞】 堂本東邨（書道）



【新人賞】 大津智永（華道）

受賞者名	田中美鈴 (たなか みすず)
年 齢	81歳
住 所	京都府向日市
分 野	洋楽
業 績	<p>氏は、幼少より音楽教育を京都で受けた。京都市立堀川高等学校音楽科においてピアノの専門教育を受け、京都市立音楽短期大学(現 京都市立芸術大学)ピアノ専攻を卒業。その後演奏活動を開始し、1964年より、母校の堀川高等学校音楽科において音楽教育に携わった。</p> <p>堀川高等学校音楽科(現 京都市立京都堀川音楽高等学校)において、国内外にて活躍する優秀な音楽家の育成に努め、多くの実績を上げている。退職後は、青山音楽財団の理事として、同財団の音楽活動を支え、現在は理事長を務めている。京都音楽家クラブにも長年在籍し、その間、理事や演奏委員をはじめとした役職に就き、同クラブ運営に多大の寄与している。とりわけ献身的な態度と人柄により、これまで音楽家の育成並びに京都の音楽文化振興に全精力をつぎ込み、その多くの活動は、音楽家として大きな存在である。</p>
略 歴	<p>三重県出身</p> <p>昭和36年 京都市立音楽短期大学(現 京都市立芸術大学)ピアノ専攻卒業</p> <p>昭和39年 京都市立堀川高等学校に勤務</p> <p>平成2年 青山音楽財団理事に就任(現在 理事長)</p> <p>平成9年 京都市立音楽高等学校開校と同時に教頭に就任</p> <p>平成12年 同校校長に就任</p> <p>現在 青山音楽財団理事長</p> <p>【主な受賞歴】 京都市教育推進者表彰、公益信託藤堂頭一郎音楽褒賞</p> <p>【代表作等】 読売テレビ新人演奏会、NHKラジオに出演 真声会によるピアノ研究グループの発表会においてソロと伴奏で出演。 モーツァルトやベートーベンのピアノ協奏曲を京都市交響楽団、 アカデミア管弦楽団、 関西フィルハーモニー、モーツァルト管弦楽団等 と共演</p>

受賞者名	杵屋勝九郎 (きねや かつくろう)
年 齢	57歳
住 所	京都市伏見区
分 野	伝統芸能
業 績	氏は、師匠である二世 杵屋勝七郎氏の下で研鑽を重ね、市民邦舞会や南座顔見世興行、その他の歌舞伎興行、杵勝会などで舞台経験を積み上げた。2007年からは、京都創生座の一員として、多くの作品の長唄曲の作曲に携わり、作曲家としての実力も兼ね備え、この時に作曲された主な作品は、「洛中伝承」、「四神記」、「青龍」、「舞車」などがある。その後自身が主宰する「長唄喜楽会」、「長唄ひろき会」を立ち上げ、長唄の普及や後進の指導・育成にも尽力している。演奏活動の「長唄 稀曲の会」では、古典の復曲や発掘及び研究に力を注ぎ、人間国宝で横笛奏者の藤舎名生氏から、採譜を依頼されるなど、音楽家としての実力が認められ、2016年の「宗家藤蔭会 創流百周年記念公演」(東京国立大劇場)では、初代藤蔭静樹が1912年に創作し、自ら踊った代表作「思凡」の復曲及び編曲を担当し、演奏した。2019年の藤蔭会でも新しく流舞として作った「藤乙女」を作曲し、発表した。これらの活躍は、これからの京都の邦楽全般に寄与すると大いに期待される存在である。
略 歴	<p>広島県出身</p> <p>昭和63年 歌舞伎初出勤(南座)〔三代目 市川猿之助「奴道成寺」〕 平成 元年 七世 杵屋勝三郎より 芸名「杵屋浩基」を許される 15年 チェコ共和国プラハにて演奏 19年 京都創生座に参加 20年 自主公演「喜楽会」を開始 現在12回開催 24年 アメリカ・サンフランシスコにて演奏 京都創生座メンバーとしてロシア・モスクワにて公演 (同2013年、2014年)</p> <p>令和 2年 二代目 杵屋勝九郎を襲名 現在 長唄「ひろき会」「喜楽会」主宰 一般財団法人 杵勝会所属 長唄三味線方 関西支部長 立命館中学校・高等学校にて三味線指導</p> <p>【代表作】 主宰公演「長唄喜楽会」「長唄ひろき会」 同人参加「長唄稀曲の試み」「現代邦楽 皐月の会」 作曲作品「洛中伝承」「四神記」「青龍」「舞車」「藤乙女」他 補曲作品「思凡」</p>

受賞者名	堂本東邨（どうもと とうそん）
年 齢	74歳
住 所	京都市山科区
分 野	書道
業 績	<p>氏は、幼少の頃より書道を始め、兵庫県立鈴蘭台高等学校を退職後に京都市に転居し、本格的に「書」の道に進んだ。京都府下の教育者を中心に、書道文化の研鑽と、書道教育の進展を図るために設立された、水明書道会に所属し、永年にわたり、水明書展の一般部、青少年部の審査、および月刊書道「水明」競書誌の運営に務めた。2013年には、副理事長に就任する。2014年には、京都書道連盟の副理事長にも就任し、現在に至っている。各種の役職を務めるなか、京都市芸術文化協会においても、調査・編集委員を経て、芸術文化会議委員を務め、協会の運営に携わる。京都市の「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」をはじめとする、学校での青少年指導にも多々携わり貢献している。また、東燿会を主宰し青少年から一般の書道指導と共に教育者育成にも力を注ぎ、多くの弟子を育てた。</p> <p>作家活動においては、日展、読売書法展などの国内展をはじめ、日中文化交流展、スペイン展など海外展にも意欲的に取り組み、書道文化の進展と人材の育成に尽力した功績が認められる。</p>
略 歴	<p>兵庫県出身</p> <p>昭和60年 京展 入選（以後10回）</p> <p>平成 2年 水明書展 知事賞・市長賞（以前他 13回）</p> <p>3年 東燿会 主宰</p> <p>10年 日本刻字展 秀作賞（以前他 1回受賞）</p> <p>19年 日展 5科 入選（以後3回）</p> <p>書道研究 天真会常務理事</p> <p>25年 天真全国書道展 内閣総理大臣賞（以前他 3回）</p> <p>水明書道会 副理事長</p> <p>26年 京都書道連盟 副理事長</p> <p>29年 藝文京展 優秀賞</p> <p>30年 雪舟美術協会展 理事長賞（以前他1回）</p> <p>令和 元年 読売書法展 読売俊英賞（以前他5回）</p> <p>京都市芸術文化協会 芸術文化会議委員</p> <p>【代表作等】</p> <p>平成 5年 中国陝西省文化庁</p> <p>7年 チェコ・プラハ市役所に作品収蔵</p> <p>チェコ・プラハ展、フランス・リヨン展</p> <p>28年 モナコ展</p> <p>令和 2年 イタリア・ミラノ展</p> <p>天真全国書道展、日展など日本では多数出展</p>

受賞者名	大津智永 (おおつ ちえい)
年 齢	42歳
住 所	京都市左京区
分 野	華道
業 績	<p>氏は、華道界デビュー当初より、独創的ないけばな作品を発表し、一貫して新しい表現への挑戦を続けている。自流派内での教授活動に加え、京都及び関西華道界での貢献も目ざましく、多くの諸流派いけばな展で中心的役割を担っている。特に京都の若手華道展の企画・実行に何度も携わり、実行委員会の座長や実行委員長の大役を見事に務めてきた。</p> <p>また、NPO法人いけばなネットワーク21京都の一員として、2012年1月に宮城県石巻市と岩手県陸前高田市にて、仮設住宅入居者の交流と応援のための「いけばな体験教室」を開催し、“いけばなの力”を改めて体験し、華道文化を社会に生かすことに積極的に取り組んでいる。これらの多彩な活躍は、今後益々の華道への貢献を期待できる。</p>
略 歴	<p>京都府出身</p> <p>平成21年 京都いけばな協会 協賛会員 22年 h a n a 実行委員会座長 (同 23年) 24年 大阪府華道家協会 評議員 25年 (公財)日本いけばな芸術協会常任委員 27年 京都新世代いけばな展実行委員長 (同 令和2年)</p> <p>【代表作等】 都未生流花展の他、諸流派のいけばな展に出品多数 (日本いけばな芸術展、華道京展、いけばな大阪展、h a n a シリーズ、京都いけばなプレゼンテーション、花灯路現代いけばな展、京都新世代いけばな展、いけばな新進作家展等)</p>